

徒手理学療法とは？

徒手理学療法部門
運営幹事 浅田 啓嗣

徒手理学療法の定義

徒手理学療法とは、『臨床推論に基づき徒手的治疗技術と運動療法を含む高度かつ個別の治療アプローチを使用して、神経・筋骨格系機能のマネージメントを行う理学療法の専門領域』です。科学的および臨床的に有効なエビデンスと個々の患者の生物心理社会的背景を考慮し、包括的な治療を実践します。

(IFOMPT ホームページ, OMPT Definition¹⁾より)

IFOMPT

IFOMPT (International Federation of Orthopaedic Manual Physical Therapists: 国際徒手理学療法士連盟) とは、神経および筋骨格系領域の理学療法に関する厳格で特殊な卒業教育プログラムを終えた、徒手理学療法士の国際的なグループです。世界理学療法連盟 (WCPT: World Confederation for Physical Therapy) のサブグループとして、「徒手理学療法士のための臨床・学術的な向上と統合の国際的促進」を目的に 1974 年に形成されました。IFOMPT への加盟は国単位であり、IFOMPT の基準に基づいた教育プログラムを実施していることが求められます。我が国においては 2008 年にオランダで開催された国際会議にて正式加盟が認められ、JFOMPT (Japanese Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists) として登録されています。

運動器徒手理学療法認定士と JFOMPT

運動器徒手理学療法認定士 (Orthopaedic Manual Physical Therapists : OMPT) とは、IFOMPT の基準を満たす 500 時間以上の教育を受け、認定試験に合格した理学療法士を指します。一般に徒手理学療法士と呼ばれます。徒手理学療法部門では国内における組織の整備をすすめ、JFOMPT として国内における OMPT の登録を行っています。

徒手理学療法部門における研究活動

当部門では徒手理学療法の効果に関するエビデンス構築にむけ研究を進めています。研究成果については学術大会などで随時紹介していきます。

研究課題1：徒手理学療法部門におけるエビデンスの構築に向けたプロジェクト研究

2015年より部門内で研究組織を立ち上げ、海外における徒手理学療法による日常生活動作能力改善効果について系統的レビューを実施した。さらに国内における複数の施設にて徒手理学療法の運動・生活機能に対する効果を調査した。

内容紹介・成果発表(今後の予定含む)

第52回日本理学療法学術大会 徒手理学療法部門企画教育講演(2017年5月 千葉)

浅田 啓嗣 他「徒手理学療法の運動機能・生活機能に対する効果²⁾」

大石 敦史 他「徒手理学療法の効果に対するシステムティックレビュー³⁾」

第23日本徒手理学療法学会学術大会(2018年3月 東京)

浅田 啓嗣 他「変形性膝関節症の運動・生活機能に対する徒手理学療法の効果」

第6回日本運動器理学療法学術大会 セミナー(2018年12月 福岡)

浅田 啓嗣 他「徒手理学療法の運動・生活機能に対する効果—変形性膝関節症患者を対象とした予備的調査結果から—」

研究課題2：変形性膝関節症および脊柱管狭窄症患者に対する徒手理学療法介入の短期効果に影響する因子の検討—臨床予測ルール開発の予備的研究—

変形性膝関節症および腰部脊柱管狭窄症患者に対して、徒手理学療法介入による短期効果に影響する因子を明らかにする。2018年9月より研究を開始し、第7回日本運動器理学療法学術大会(岡山)において研究内容を紹介予定。

1) IFOMPT ホームページ: <http://www.ifompt.org/About+IFOMPT/OMPT+Definition.html>

2) 浅田 啓嗣 他: 理学療法学, Vol.44 Suppl. No.3, 132-133. 2017.

3) 大石 敦史 他: 理学療法学, Vol.44 Suppl. No.3, 134-136. 2017.